

博物館はなんのために存在しているのか。

Vol.22の「なじよな」は、博物館の専門職員

「学芸員」の仕事をご紹介しながら博物館の

役割とこれからの博物館をみなさんと考える

特集号です。

ため。

他にもあります、学芸員のお仕事

調査・研究の成果を活かすのは展示だけではありません。博物館で行う講座やワークショップ、学校へ出向いて行うゲストティーチャーなど、様々な形で工夫をこらしながらお伝えしています。中にはツアーガイドのようなお仕事も。



防災講座
身近にあるもので防災グッズをつくるレクチャー。ビニール袋でレインコートをつくります。



ツアーガイド
専門的な知識を盛り込んだ、学芸員ならではのガイドで楽しんでいただけます。



ワラに親しむワークショップ
ゲストティーチャーとして学校にお邪魔し、わら細工についてレクチャー。縄を扱う体験もしてもらいます。



縄文土器の野焼き
参加者の作った縄文土器を、学芸員自ら野焼きします。きれいに焼きあがるかは、学芸員の腕次第！

展示替え作業が進行中！

現在休館中の県立博物館では、展示替えの作業も進行中。常設展総合展示室の「自然と人間」エリアの展示を、より現代的なテーマの展示にする予定です。4月には新しい姿をご覧いただけますので、ぜひお楽しみに。



(左)資料が撤去された展示室。ガランしていますが、これから新たな資料が並びます。どんな展示になるのか、お楽しみに！

(右)作業風景(パネルを外す等)
新たな展示にするため、以前の資料を引き上げたり、パネルを外したり。色々な準備があります。

こどもミニミニはくぶつかん

～ものづくりとICTで遊ぼう～ IN会津短大

会津大学のお姉さんお兄さんが、博物館の資料にちなんだゲームやものづくり、「読み聞かせ」を準備して皆さんを待っています。ゲームやものづくりに関連した博物館の資料も用意して皆さんをお待ちしております。



日時 2025年1/26(日)10:30~15:30 ※どの時間も、いつでも参加できます。
場所 会津大学短期大学部付属図書館 iimo(イーモ)
参加費等 無料/予約不要/ワークショップ先着順
主催:会津大学短期大学部、福島県立博物館
遊んでくれる人:会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科「こども実践演習Ⅰb」受講生
会津大学コンピュータ理工学部 課外プロジェクト
「デジタルゲーム&地域イベントプロジェクト」受講生



休館のお知らせ

当館は2025年3月31日(月)まで、施設改修工事のため休館します。なお、上記の休館中であっても土・日・祝日・年末年始(12/28~1/4)以外はお問い合わせいただけます。



■JR会津若松駅から約3km
・タクシーで約10分
・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)

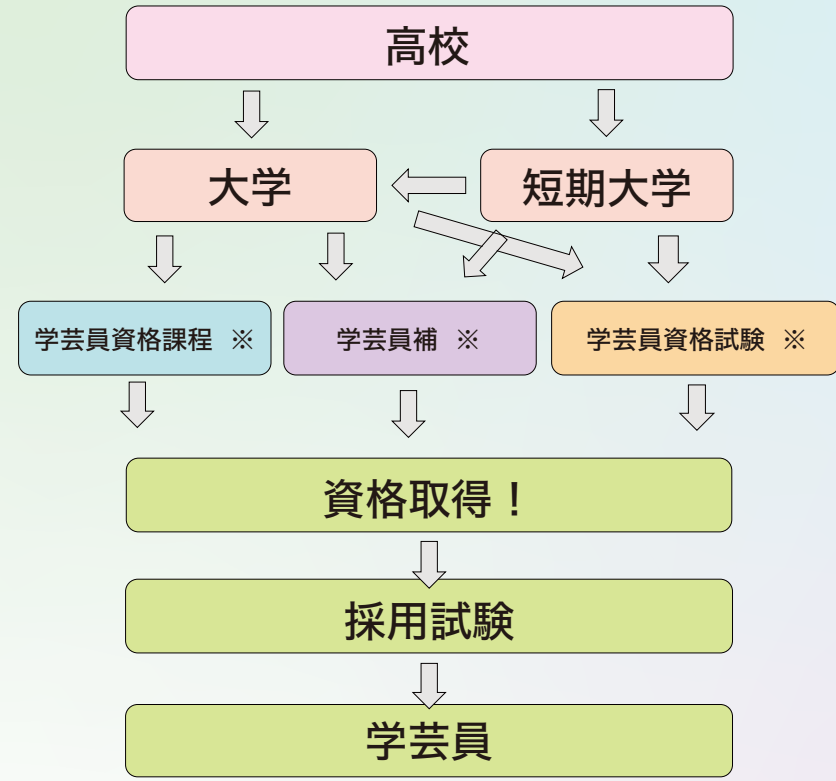
♿ 車椅子利用者用駐車場
・博物館西側「鶴ヶ城三の丸口」バス停そば:2台
・一般駐車場内博物館入り口側:3台
※ご不明な点はお問い合わせください。

お客様から「学芸員は普段どのような仕事をしているの?」と尋ねられることがあります。博物館の裏側でいろいろな仕事をしているのですが、一言で説明しづらく、どのようにお答えしたらよいか考えてしまうこともあります。今号は博物館をもっと知って頂くため、そこで働く学芸員の仕事を紹介します。

学芸員ってなに?

博物館には、歴史・文化・自然など、様々なものごとにかかわるモノ=資料が収められています。これらの博物館資料を集め、どんなものを調べ、大切に取って置くという仕事をしているのが学芸員です。また、資料をみなさんに観てもらうために、展示室という部屋に並べたり、説明文を書いたりするのも学芸員のお仕事です。

■学芸員になるには



※学芸員資格課程

文部科学省が定めた科目で、これを修了すると学芸員資格を得ることができます。ただし、全ての大学に設置されているわけではありませんので、学芸員を志望するあなたは要確認です。

※学芸員補

学芸員を補助する仕事です。大学に2年以上在籍し、決められた科目を修めるとなることができます。主に3年以上の経験を積むと、学芸員資格を取得することができます。

※学芸員資格認定試験

学芸員になる資格があることを認めるための試験です。その人の学歴や職歴によって、筆記試験である「試験認定」と、研究などの実績で審査される「審査認定」があります。多くの場合、実際に博物館にかかわる仕事をしたことがあることが条件になります。

学芸員にはどうやってなるの?

学芸員資格課程を設置している大学で必要な科目を収めると、学芸員資格を得ることができます。また、学芸員補として仕事の経験を積むか、学芸員資格認定試験に合格することでも、資格を得ることができます。しかし、実際に博物館で働くには、それぞれの館が行う採用試験を受けて採用される必要があります。

学芸員ってどれくらいいるの?

少し前のデータですが、文化庁によれば平成30年10月時点での全国の博物館数は5,738館だそうです。一方、そこで働く学芸員の数は8,403人とされています。

(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shinko/sui/)単純に割り算すると、1館あたり1人~2人の学芸員が働いている計算です。ただし、博物館には大きく分けると①登録博物館、②博物館相当施設、③博物館類似施設の3種類があり、学芸員に相当する職員が必須の①②だけでみると、3~4人が平均のようです。ちなみに福島県立博物館の学芸員は平均を大きく上回る20人!福島県が歴史や文化、自然の重要性を高く考えていることがわかりますね。

福島県立博物館の学芸員は、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学の7分野で**20人!**

展示室にいるのは...

「博物館で働いている」と言うと、「展示室にいるんですね。今度会いに行きます!」と言われることがあります。でも学芸員が展示室にいることはあまり多くありません。福島県立博物館では解説員とよばれる人たちが展示室にいて、来館者のみなさんからの疑問・質問にお答えしています。学芸員は事務室や研究室などにて、来館者と直接お会いすることは多くありません。それでも、時々展示室に立って、来館者のみなさんが展示を観てどんな反応をしているのか、ドキドキしながらチェックしたりもしてるんです。



解説員

色々な学芸員がいるよ

一口に学芸員といっても、それぞれに専門の研究分野があります。全く違う資料を扱っているのに同じ職業というのはいささか不思議な気もします。例えるなら、学校の先生にも国語や社会、体育と様々な先生がいるのと同じ感じかもしれません。ここでは、福島県立博物館の学芸員4人がどんな資料を調査・研究しているのか、並べてみました。

猪瀬弘瑛学芸員 (自然分野)

いわき市で発見されたメソゾシアというアンモナイトです。残念ながら貝殻本体は失われていますが、代わりに殻の内側の複雑な模様「縫合線」が見えています。縫合線はアンモナイトを分類する上で重要な手がかりになっています。



いわき市産アンモナイト

栗原祐斗学芸員 (歴史分野)

アジア太平洋戦争のとき、陸軍軍人だった星龍男さん(現 南会津町大桃出身)の軍靴です。星さんは、1945年8月に択捉島でソ連軍(ロシア軍)に拘束され、1948年6月までシベリアに抑留されました。抑留中は寒さや飢えに苦しめられながら、重労働に従事しました。



軍靴

塚本麻衣子学芸員 (美術分野)

お寺での仏像調査の様子です。普段は見ることのできない角度から様々な観察し、記録します。時には仏像の内部や底面に書かれた銘文(いつ、誰が、何のために造ったかなどの記録)を発見することもありますよ。



西会津町鳥追い観音如法寺の仏像(2024年8月30日)

大里正樹学芸員 (民俗分野)

民俗分野は各地で古くから続いてきたお祭りや年中行事、すなわち人々の暮らしの中の行いそのものも調査対象としています。よく聞く「無形民俗文化財」「無形文化遺産」とはそういうもので、「もの」を展示すべき博物館にとってその展示方法は悩ましいところ。一般的には行事の過程を写真や映像で記録しつつ、展示する実物としては例えばお祭りに使う道具、行事食など実物で保存できないものについては、展示用の食品サンプルを作る、なども行います。



「どぶろくまつり」の食品サンプル

学芸員のお仕事

資料を集めて保管する

博物館ではそれぞれの館の特徴にそった、研究に役立つものを集めています。これらのものを「資料」とよびます。資料の集め方には、①現地に行って化石や鉱物などをとってくる「採集」、②資料をもって人からゆずりうける「寄贈」、③古美術商など専門の業者から買う「購入」、などがあります。



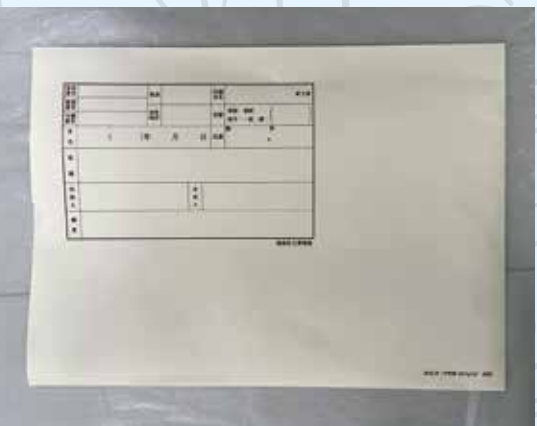
採集の様子(自然分野)

集められた資料は、「収蔵庫」とよばれる場所に大切に保管されます。資料の情報はデータでも管理していますが、だれが見てもその資料が何かわかるように、資料カードをつけています。



収蔵庫には様々な資料が収められています

また、資料にあった一番いい保管方法を考えるのも学芸員の仕事です。昔のことが書かれた紙を古文書といいます。普通の封筒や段ボール箱は紙をダメにするガスを出してしまうため、特殊な封筒や箱に入れて保管します



古文書を入れる中性紙封筒・中性紙箱

資料をもとに調査・研究をする

集めた資料がどんなものなのか、詳しく調べるのも学芸員のお仕事です。これを調査・研究といいます。調査や研究の方法も学芸員が扱うものによって様々ですが、資料を詳しく調べることによって、新しい発見があったり、地域の歴史や文化を知るのに役立つ情報を得ることができます。一方、人の暮らしをテーマにする学芸員は、地域の人から話を聞いたり、行事やお祭りの調査をすることもあります。博物館はものを集めますが、そのものにかかわる情報も同じように大切に集めています。



自然分野の資料研究



民俗分野の資料調査

資料を展示してみんなに観てもらおう

博物館では集めた資料や調査・研究の成果を多くの人に観てもらうため、館内で展示を行います。展示には、いつでも観ることのできる常設展と、特別に開催する企画展があります。企画展は新しい資料を公開したり、学芸員のその時々の調査・研究の成果を発表するものになります。



企画展「幕末明治の浮世絵百年 一大江戸の賑わい」会場



企画展「縄文DX-会津・法正尻遺跡と交流の千年紀-」会場



企画展「ふくしまの酒造り-酒を醸し和を醸す-」会場



囃人形の搬入

企画展は展示する資料の性質や、担当者の考えるストーリーによって、会場のレイアウトや雰囲気が大きく変わります。できるだけみやすくわかりやすい展示にするため、頭を悩ませます。



常設展 総合展示室